

祝島の植物観察 山歩きマップ

③ ためいけ 「カタイ溜池」編

山口県熊毛郡上関町祝島

制作：祝島ネット21 (2025年12月発行)

◎カタイ溜池

カタイ溜池は、島の山頂近くの標高300m付近の鞍部に造られています。カタイ地区で稲作を行うために大正時代に築かれた溜池です。かつては、この溜池の南側斜面には多くの棚田が広がっていましたが、現在ここでお米作りをしている農家はいなくなりました。水は今でもよく溜まるので、島の簡易水道の補助タンクの役割を担っており、雨の少ない祝島の貴重な水源として大切にされています。ちなみに「カタイ」と書きますが、島の人たちはなぜかみんなが「カタア」と呼びます。



きれいな棚田や段々畑が広がる
昭和40年代のカタイ地区の様子

◎植物観察のポイント

美しい景色と花の香りが楽しめるコースです。春はトベラやかんきつ類、夏はテイカカズラやクサギ、秋はオオバグミ、冬はビワなどの花の香りに包まれます。日当たりの良い山道が続き、ツルウメモドキやガガイモ、アケビなどのツル性植物も多く見られます。溜池周辺には、珍しいカンコノキやオオムラサキシキブが自生し、晩秋には様々な色の実が目を楽しませてくれます。

※このパンフレットの制作は、(公財)日本離島センターの
離島人材育成基金助成事業による助成を受けています。

「カタイ溜池」までの道でよく見られる植物



ヒサカキ

日本の全樹種中一番数が多い木です。ガスみたいな花のにおいが漂い始めたら春の到来。



ハハコグサ

全草が綿毛に覆われて柔らかく。淡黄色の花が集まって咲きます。春の七草のひとつ。別名ゴギョウ。



トベラ

暖地の海岸林を代表する木。祝島では節分の時、魔除けに枝を扉にはさみます。花の香りは爽やか。



ノシラン

海岸林に生える多年草。花は夏に咲いて、冬に美しいコバルトブルーの種子が生ります。



サネカズラ

ツル性の常緑樹。古くはツルを水でもんで出てくる液を整髪料に。別名はビナンカズラ。



アケビ

ツル性の落葉樹。淡紫色の花はパラシュートみたい。果肉はタネを避けて食べるのが大変。



カタイ溜池



キランソウ

地面に張り付くように伸び、春に青紫色の小花を咲かせます。別名はジゴクノカマノフタ。



ガガイモ

ツル性多年草。夏にヒトデみたいな花が咲きます。実から飛び出る綿毛はケサランバサランとも！



メハジキ

日当たりよい山道で見られる越年草。短く切った茎をまぶたに挟み飛ばす遊びが名の由来。



ヌスビトハギ

山道で会える多年草。夏にハギみたいな小花を咲かせます。花後に生る果実はひっつき虫。



ケカタバミ

全体に毛が多くなったカタバミの海岸型の変種です。花は晴れの日中しか開きません。



オオバマンリョウ

マンリョウの海岸型変種です。葉が大きく、樹高は2mに達することもあります。



ビワ

温暖な気候を生かしたビワ栽培が盛んです。花は晩秋から冬に咲いて、ふんわり甘い香りがします。

3.7km
ゴール

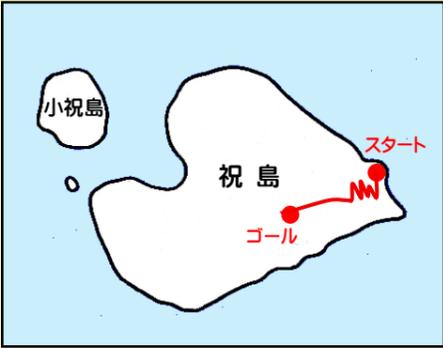
カタイ溜池



小さい橋を渡り
右の上り坂へ

【ルート解説】

港から神社の鳥居付近まで海岸の道路を東へ進みます。鳥居の少し手前の坂道を登ります。ここから2.5キロ過ぎまでずっと上り坂が続きます。途中、学校の横を通り、お墓の所を通ります。お墓の所に分かれ道がありますので、ここを右へ曲がります。道なりに上り坂を進むと、500mほど登ったあたりに分かれ道があり、ここも右へ曲がります。さらに道なりに1キロほどの上り坂を進んだあたりで、「行者堂」の道標を通り過ぎ、そのまま舗装された道を進みます。眼下に光る海が開けると、段々畑を見ながら日当たりのよい道をそのまま進みます。小さな橋を渡ると右に大きくカーブしながら登り、溜池に到着します。



この先ヤブです

このルートでよく見られる植物



アオキ



アオツツラフジ



エビヅル



オオバグミ



オオムラサキシキブ



オドリコソウ



カキドオシ



カンコノキ



クマノミズキ



シロヨメナ



シンミズヒキ



ツヤスミレ



ツルウメドキ



ネムノキ



ヒメウズ



ユリワサビ

3.0km



分岐点(右へ)

カタイ地区へ

平さんの
棚田へ

1.0km

お墓

神社

学校

戸



分岐点(右へ)

行者堂へ



行者堂方面
溜池方面

2.5km

2.0km

溜池には舗装道路をそのまま進む。石段を上ると行者堂方面へ。



集落を一望できる



室津半島 ↓ 長島 平郡島 ↓ 天田島
↑ ハナグリ島
ルート上から見える風景

祝島港

スタート

「カタイ溜池」までの山歩きマップ